

2020 年度入試状況分析【私立大】

◎増減が目立った大学

□大都市部の難関大で目立つ減少

一般選抜の志願者数が確定した大学で、志願者数の増加数が 3,000 人以上だった大学、減少数が 5,000 人以上だった大学についてみていきます。

増加した大学で、増加数が最も多かったのは日本大の 13,049 人(113)、次いで千葉工業大の 12,393 人(114)で、1 万人以上の増加は 2 大学でした。千葉工業大は 2 年連続で 1 万人以上増加しました。立命館大(110)は、前年度のセンター利用方式で合格最低点をダウンさせた募集単位が多かった経営(145)、前年度大幅減少の反動の経済(129)、系統への人気上昇している理工(120)などの大幅増加が影響しました。また、九州産業大(150)、関東学院大(122)、東京国際大(173)は、弱気な出願動向から併願先として狙われたことが影響し、東京工科大(134)、埼玉工業大(173)は、主に理・工系の人気上昇が影響して大幅増加しました。大和大(154)は、系統への人気上昇している理工を新設したことが大きく影響しました。

5,000 人以上減少した大学は、前年度の 4 大学から 15 大学へ増加しました。大学別では、早稲田大(94)、中央大(93)、法政大(90)、明治大(92)、立教大(89)、関西大(94)、関西学院大(86)といった大都市部の難関大での減少が目立ちました。これは、当初予定されていた 2021 年度入試での入試改革への不安から、難関国公立大から難関私立大への併願増加による厳しい入試が予想されたため、弱気で慎重な出願(いわゆる「安全志向」)が誘発されたことに加えて、センター利用方式を中心に前年度の合格ラインがアップしたことが影響しました。

減少数が多かった大学では、東洋大(83)、駒澤大(59)の 2 大学が 2 万人前後の減少で突出して目立ちました。

2020 年度入試状況分析【私立大】

[3,000人以上増加した大学]

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2020年度	2019年度	
日本大	+13,049	113	113,902	100,853	前年度に全国で唯一1万人以上も減少した反動がはっきりと表れた。学部別では、危機管理(176)、工(127)、生物資源科学(127)、理工(124)、経済(120)、生産工(120)などが大幅増加。一方で、メディカル系の4学部は、系統への人気低下で全て減少。
千葉工業大	+12,393	114	103,269	90,876	理・工系の人気上昇に加えて、国公立大理系のセンター試験の重い負担を嫌う層から出願校として狙われたことにより、3年連続増加。全学部で増加し、特に情報科学(118)は大幅増加。
立命館大	+9,471	110	103,669	94,198	前年度のセンター利用方式で合格最低点をダウンさせた募集単位が多かった経営(145)、前年度大幅減少の反動の経済(129)、系統への人気上昇している理工(120)などの大幅増加が影響。
九州産業大	+6,245	150	18,805	12,560	弱気な出願動向から併願先として狙われ、5年連続増加。全学部で2年連続大幅増加。
東京工科大	+5,152	134	20,283	15,131	理・工系の人気上昇で大幅増加。全学部で増加したが、特に専攻新設で学科一括募集から専攻別募集になったコンピュータサイエンス(182)、デザイン(182)、応用生物(150)はいずれも大幅増加。
神奈川大	+3,776	112	36,471	32,695	国際日本の新設が大きく影響したが、既存の学部のみでは(97)のやや減少。経営(114)は、みなとみらいキャンパスへの移転効果で6年連続増加。
関東学院大	+3,535	122	19,932	16,397	弱気な出願動向から併願先として狙われ、3年連続増加。学部別では、教育(91)を除いた10学部が増加。増加数では、系統への人気上昇している理工(132)の増加数が最多で、全体の3分の1以上を占めた。
埼玉工業大	+3,230	173	7,648	4,418	2学部とも70%以上の激増。特に工(171)が系統への人気上昇と弱気な出願動向から併願先として狙われ、2,530人も激増だったことが大きく影響。
大和大	+3,039	154	8,699	5,660	理工の新設で大幅増加。増加数のほぼ全てが理工の志願者数だった。既存の3学部のみでも(101)の微増で、学部別では、保健医療(121)の大幅増加、教育(87)の減少が目立った。
東京国際大	+3,034	173	7,169	4,135	弱気な出願動向から併願先として狙われ、3年連続大幅増加。5学部全てが大幅増加し、特に経済(216)、商(215)が倍増以上の激増となり、2学部合計で2,000人以上増加したことが大きく影響。

2020 年度入試状況分析【私立大】

[5,000人以上減少した大学]

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2020年度	2019年度	
東洋大	-20,234	83	101,776	122,010	難易度アップで慎重な出願になったことが影響。方式別では、センター利用方式(68)が大幅減少。前年度の合格最低点をアップさせたことが要因で、大学全体の減少数の約83%がセンター利用方式での減少数。
駒澤大	-19,890	59	28,825	48,715	前年度志願者数が約9%増加したにもかかわらず、合格者数を17%減少させたことで厳しい入試になったことから敬遠された。2方式とも大幅減少だが、特にセンター利用方式(41)は前年度の合格最低点が大きくアップしたことが影響し、60%近い大幅減少。
法政大	-11,819	90	103,628	115,447	前年度合格最低点をアップさせたセンター利用方式(80)の大幅減少が大きく影響。特に3教科型のくセ・B方式(77)の減少数は7,300人以上で、大学全体の減少数の60%以上を占めた。
摂南大	-9,937	74	28,575	38,512	農を新設したが、6年連続増加の反動がはっきりと表れ、1万人弱減少。既存の学部のみでは、15,006人(61)の大幅減少。7学部全てが30%以上の大幅減少で、特に外国語(55)、経営(57)、法(58)の減少率の大きさが目立った。
近畿大	-9,352	94	145,320	154,672	理系8学部合計(102)では微増したが、文系6学部は全て減少し、合計では(87)の減少だったことが影響。
明治大	-8,720	92	103,035	111,755	弱気な出願動向から2年連続減少。10 学部中増加したのは、政治経済(143)のみで、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、経営(69)、法(83)、商(84)は大幅減少。
立教大	-7,488	89	61,308	68,796	センター利用方式(80)の大幅減少が大きく影響。大学全体の減少数の約70%がセンター利用方式の減少数。
早稲田大	-6,762	94	104,576	111,338	最難関大を敬遠する傾向が影響して、2年連続減少。学部別では、基幹理工(103)、文(102)のみ増加。
大阪経済法科大	-6,689	60	10,185	16,874	7年連続増加の反動がはっきりと表れ、ほぼ前年度増加数分が減少。4学部全てが40%前後の大幅減少。
中央大	-6,210	93	86,476	92,686	開設2年目の国際情報(48)、国際経営(68)がいずれも大幅減少で、この2学部合計の減少数が大学全体の減少数の80%以上を占めた。
関西大	-5,827	94	87,625	93,452	弱気な出願動向から4年ぶりに減少したが、特に社会安全(75)、社会(82)、政策創造(85)の大幅減少が影響。
関西学院大	-5,617	86	33,209	38,826	弱気な出願動向から3年連続減少。方式別でも一般方式(87)、センター利用方式(82)のいずれも3年連続減少。センター利用方式は、理工で新規実施方式があったが、大幅減少となった。学部別でも全学部が減少し、11 学部中7学部が志願者数15%以上の大幅減少。
芝浦工業大	-5,600	88	40,905	46,505	弱気な出願動向から4年ぶりに減少。4学部全てが一般方式、センター利用方式のいずれも減少。
明治学院大	-5,424	80	21,050	26,474	2方式とも2年連続減少だが、特にセンター利用方式(63)は合格者数を2年連続で大幅に絞り込んだ学部・学科が多かったことで敬遠され、2年連続大幅減少。
専修大	-5,177	91	51,024	56,201	4年連続増加の反動が表れ、新設・廃止学部を除くと、(83)の大幅減少。既存の学部別では、商(106)のみ神田キャンパスへの移転効果で増加。一方で文(69)、法(71)、経営(79)は大幅減少。